

2017 年度協定留学プログラム
派遣学生留学状況報告書

非公開希望	項目	内容
	所 属	国際社会科学部 国際社会科学科 2年（留学年次） 3年（帰国年次）
原則 公開	留学先	※大学名、学部、学科名を記入してください。 トリノ大学 International relations
原則 公開	留学期間	※実際の留学期間（留学先での授業期間）を記入してください。 2017年 9月 23日 ～ 2018年 7月 9日 出国日 2018年 8月 14日 最終帰国日 2018年 8月 15日

留学の状況について、各項目について書いてください（合計1,500字以上）。これから海外留学をする学生にとって貴重な情報となりますので、なるべく仔細な記述をお願いします。

1. 留学全般について

(1) 留学当初の所感（第1・2回目報告書記載）について、自己評価や、留学前からの意識の変化等

(2) 留学前にもっと準備をしておけばよかったと感じること

イタリア語の勉強、特に自分についてイタリア語で紹介する力を書くことと話すことを中心に磨いておけばよかったと思う。実用できるようになるまでには時間がかかり慣れるまではとっさのイタリア語が出てこないことが多かった。帰国後はNHK出版の毎日イタリア語講座と旅するイタリア語のテキストブックを利用し、日記を書くことによって維持向上にできるだけ務めている。履修する科目について詳細を把握して出発すれば効率よく履修を組むことができたと感じているが、学部ごとにシラバスや履修に関する情報が記載されたサイトが全く異なっていたためいずれにしろ時間はかかった。これからトリノ大学に留学に行く学生は事前に単位認定したい科目と見合った現地の科目履修についての情報収集は時間がかかるため早めに調べておくと安心。

2. 留学先大学について

(1) 留学先大学の授業や教授等についての印象や感想

大学の授業は一回に2時間で日本より授業時間が長いため、通年通して履修する科目が少ない。SAAで履修したイタリア語の授業は多くのアメリカ人の学生とともに授業の初めに学

んだ文法を駆使して短いエッセイや発表を行うアウトプットの活動を主に行ったので、まだまだ学び途中であるが運搬能力の高いイタリア語を一年かけて習得することができた。語学の学びにおいてだけでなく、様々な授業で学生が自由にアウトプットできる機会を多く設けているイタリアの教育では特に話して伝える力をイタリア語、英語問わず鍛えることができる。また2学期に履修した Urban history and society の授業はトリノの街の歴史、成り立ちについて課外活動を含め、足を運び自分の目で確かめながらトリノの建物から見える歴史、文化を感じたり理解を深めたり、個人的に興味深くて印象深い授業となった。履修した科目の中には一週間で完結する短期集中型の授業があったり、試験日を自分で選ぶことができる科目があったり、口頭試験があったりとイタリアの教育システムは単一的な日本の教育と比べて多様で柔軟性があり学生個々の能力を多角的に評価する体制、環境が整っていると強く感じた。

(2) 留学先大学のキャンパスや施設についての印象や感想

トリノ大学は学部ごとに通うキャンパスの建物が異なっているので、トリノの都市にたくさん大学の施設が存在している。大体のキャンパス間は歩いて20~30分で移動することができるが私が2学期に通ったSAA(School of management)は自宅からバスで45分くらいかかる都心から離れた場所にあったため移動が不便だった。どのキャンパスにもBar カフェテリアが一つは存在しているため学生は気軽に利用できて便利だった。またキャンパス付近にはMensa 食堂が設備されていることが多く、一回1.8ユーロで食べることができ食費の節約の手助けになった。大きな規模の図書館にはイタリア語だけでなく英語の書籍、日本語の書籍さえも見つけることができるのでリサーチやレポート作成の際に役に立った。学生はイタリア人だけでなく留学生も自然体に交えて授業を開講しているクラスが多く、彼らの積極的な授業態度から自分自身ものすごく良い刺激を受け、学んだことは本当に数多い。

(3) 留学先大学の留学生に対するサポート体制について

語学面：留学生を対象とした語学補習講座のようなものが授業として或いは授業外で開講されているのかどうか、また開講されている場合は、その時間数や内容、費用等について書いてください。

留学生用のイタリア語の授業が毎学期開講されている。(最初の学期分のみ費用がかからない)先生によって進む授業の速度や使用する教科書は異なっている。通常科目の補講講座は基本的には開講されていないのでわからない点があれば教授に個別に相談していた。

生活面：生活面のサポートや留学生向けのイベントについて書いてください。

最初の留学生オリエンテーションで個々に1人バディがつくのでその人に悩みを相談したり手続きを手伝ってもらったりした。ESN Torino という留学生のためのイベントが毎週二回くらいあり一緒にスポーツを楽しんだり、世界各国の料理を作って持ち寄ったり、イタリア映画を英語の字幕つきで観れるイベントやパーティーがたくさん定期的にイタリア人も含め開催されていたので友達を作るきっかけは多くあった。

資金面：現地で得られる奨学金等の情報があれば書いてください。

特になし。

(4) 留学先大学周辺の治安について書いてください。

大学の場所によって違うが大体の大学周辺は緑が多く学生がランニングをしていたり大きな通りに近いキャンパスでも周辺はカフェやレストラン、学生が利用できるセキュリティーが強化された寮や自習室があったりと一年を通して比較的静かで穏やかな雰囲気があった。

(5) その他留学先大学についての印象や感想があれば書いてください。

通うキャンパスの場所によってそれぞれ違う雰囲気があるが学生のほとんどは英語を理解して親身になって話してくれる人が多かったので、最初イタリア語がわからなくてもあまり心配する必要はない。イタリア語は日々の生活の中で必ず少しずつ理解できるようになる。日本の大学で一般的に開講されているような科目はもちろん履修することができるが、一般教養科目に値する科目が現地では学習院大学よりも豊富にあるのでヨーロッパだからこそイタリアにいるからこそ履修できる科目を履修することができたら尚よかったと思う。(映画史、イタリア文学やイタリア料理、文化について学ぶクラス、トリノの街の成り立ちや建築、歴史について学ぶことのできる科目等たくさんある。)

(6) 留学先での履修科目等

※本学での単位認定に関係なく、①に派遣先で履修した科目名をすべて記入してください。単位が認定された場合は、その科目の②に本学での科目名を記入してください。行は適宜追加してください。

※成績証明書を添付してください。

①留学先での履修科目名 (単位数)	②本学で単位認定された科目名 (単位数)
Italiano B	
Economic Development	
African Development	
Urban History and Society Region Europe	

3. 宿舎について

(1) 種類

大学の寮／アパート (シェアハウス)

(2) 家賃

月額 (現地通貨) 約 450 ユーロ /270 ユーロ、(日本円) 約 6.5 万円/ 約 4 万円

(3) 食事

自炊 外食 (アペリティーボ チェーナ)

(4) 大学までの交通手段、所要時間

徒歩／バス／地下鉄／ 計 5 分(徒歩) 計 50 分(バス、地下鉄)

(5) 感想、良かった点・悪かった点

Campus Einaudi から徒歩五分に位置する Olimpia 寮に約半年間滞在したが、他のヨーロッパ圏に比べて寮費が高いと感じた。(洗濯代は別途かかる) 二人部屋だったのでトルコ、台湾、エジプト等他国の留学生と一緒に生活したことで実用的な英語を向上させることができた。

残りの半年を2人のイタリア人とアパートメントでシェアハウスし、現地のイタリア人の暮らし方を一緒に生活する中で学び、毎日彼らと自分の抱える悩みや嬉しかったこと悲しかったこと等コミュニケーションを交わすことで自分の話すイタリア語が向上していることを実感できたとともに時にはオープンに話すことの大切さを痛感した。

4. 費用について

(1) 学 費

(現地通貨) 約0 学習院大学から交換留学のため

(2) 渡航方法と金額

飛行機(日本円) 約 10万 円 (片道)

(3) 生活費

(現地通貨) 月額・年額 約 700~800 ユーロ 、(日本円) 約 10万~12万 円

※ 宿舎費を含めた金額を記入してください。

(4) 費用の持参方法

クレジットカード/現金

⇒その方法についての感想、良かった点・悪かった点

デビットカードを使用したので入金されている額以上に使うことができないため安心ではあった。イタリアはバールやタバッキ等場所によっては現金のみでカードが使えない場所もあるので毎日何かの時のために現金を持ち歩く必要があった。

(5) 「学習院大学海外留学奨学金」を受給した場合、その主な支出内容と金額の内訳

国際社会科学部から語学力における奨学金を計30万受給した。支出内容は生活費と旅行費にあてた。

5. 保険について

(1) 保険会社名

ジェイアイ損害火災保険株式会社

(2) 保険料

約7万円

(3) 加入した保険の種類、内容

交通事故 盗難 震災

(4) 感想、良かった点・悪かった点

幸いなことに保険を使う場面に出くわさなかったが、

6. 荷物について

(1) 荷物の送付方法

船便/SAL 便

(2) 持って行って良かったと思う物

冬の防寒着

(3) 持って行く必要が無かったと思う物

特に無し

(4) 持って行けば良かったと思う物

ホッカイロ

7. 平日および週末の平均的な過ごし方

(1) 平日

授業後にカフェや図書館で勉強したり、夕食前のアペリティーボで友達と集まって軽い食事をしたり、映画を見に行ったりしていた。

(2) 週末

週末はたまに友達と集まって夕食後に踊りに行ったり、体を動かしにランニングをしたり、映画博物館や美術館といった主要な観光地に足を運んだりしてゆっくりとトリノの文化を 1 人であるいは現地で作った友人と楽しむ機会を一年間通してたくさん得ることができた。連休があるときにはトリノから電車で 1,2 時間程度のミラノに日帰りで行ったり、友達の運転でトリノから少し離れた小さな街に出かけたりと自分 1 人では訪れることができなかった場所にも行くことができ、トリノ以外のイタリア人のローカルな生活を知ることができた。

8. 後輩へのアドバイス等

大学の授業のスケジュールがわかったら早めに行ってみたい場所ややってみたいことをリストアップして週末等を上手に利用して勉強はもちろん、イタリアの様々な地域に是非行ってみてください。大体の場所は電車で行くことができます。イタリアは地域ごとに建築や食等に違った特徴があるのでイタリア文化を色々な角度から見る点でとても興味深い旅行になると思います。そして旅行を通してまたは人との触れ合いを通して自分のアイデンティティについて考えさせられる良い機会がたくさん待っていると思います。

9. その他、雑感や要望など書きたいことがある場合は自由に書いてください。